

八戸市地域保健医療対策協議会会議概要

1. 日 時 平成22年2月4日(木) 午後2時~3時40分

2. 場 所 市庁本館3階 議会第三委員会室

3. 出席者 委員 14名

村上壽治委員・菅原泰男委員・高木伸也委員・成田寛治委員
館林美恵子委員・小山祐子委員・小澤一雄委員・壬生八十博委員
阿部貞一委員・大鰐恭子委員・小橋節子委員・中村かつ彥委員
伊藤啓二委員・杉山靖子委員(欠席:中村世志朗委員・田口豊實委員)

石橋健康福祉部長・池本健康福祉部次長
(健康増進課)加賀課長・木村母子保健 GL・鈴木成人保健 GL
西村主幹・石藤主幹・野田主幹・嶋森主幹・上杉主事
(南郷区市民生活課)曾我課長・四戸所長
(健康福祉政策課)八木田 GL

4. 新委員紹介 八戸青年会議所 小澤一雅委員

5. 会長あいさつ (村上壽治会長)

6. 議 事

(1) がん検診の受診状況について

資料に基づいて事務局より説明(鈴木 GL)

村上会長

ありがとうございました。たくさん説明いただきましたけれど、今の説明でわからないところとか、もっと聞きたいことございますでしょうか？

はい、どうぞ。

菅原委員

簡単に質問します。この表の対象者の算定がございましたがね2ページ目3ページ目

あと5ページ目にも出てきますが、これは2ページ目と3ページ目の方の正確な数字をどちらの方がよいとお考えですか？対象者のさっきご説明の数字ですよ。

鈴木G L

はい、どちらが正確かといわれると、

菅原委員

正確っていうか、

鈴木G L

実はどちらが正確かと言われると、

菅原委員

それぞれの対象の仕方をしているから、これはこれで比較すればいいんでしょうが、

鈴木G L

そのように解釈していただいた方が、

菅原委員

まあ、いろんな他の町村との比較なんかもなかなか難しいなということで、いまお聞きしましたが、

鈴木G L

はい、そうですね。

菅原委員

よろしいです。

鈴木G L

当市の中での推移を見るには、この1番目の2ページの方で見ていただければいいです。

村上会長

はい、どうぞ。

小橋委員

6ページですね、がん検診について広報の強化のところに、女性の特有の検診について

無料のクーポン券が出てるってということだったんですが、私、聞き間違いでなければ、今年度で1年で終わりになるかなってお話も聞いたんですが、今ここを見ますと、21・22年度ってということですから、今後もそれは続けてあるってというような考え方でしょうか？

鈴木G L

そうですね、ここに平成21年度から22年度って上に書いてありますので、これについては国の方では22年度にも予算化をしておりますけれども、今年度につきましては全額国の補助があるわけなんですけれども、来年度は検診費用も事務費も半分ということで、市町村の持ち出しが出てくる予定でございます。で、詳しい補助要綱が出ておりませんので、今の段階で八戸市で実施するかどうか、それから検診受診率を上げるためにもっといい方法がないのかどうかというあたりで、今はまだ検討中という状況でございます。

菅原委員

もうひとつよろしいですか、これ6月現在でこうカットしてますよね。

鈴木G L

あの、精検受診率でございますよね。

菅原委員

はい、これ次の年の3月までになるように変わったんでなかったでしょうか？このままでしたでしょうか？

鈴木G L

この保健業務概要を作るめどがあるので、8月までには作りましょうということがございまして、それでどこかで線を引かなければならなくて6月にしてございますけれども、説明で申しあげましたように、センターさんのご協力も頂き、プラス10%ぐらいは精検受診率は上がってございます。年度年度また次にこう足していけばいいのかもわからないですけども、

菅原委員

そうじゃなく精検受診率を出すのが前は6月で良かったんですが、去年からでしょうか、次の年の3月までっていうふうに変わりませんでしたですか？

鈴木G L

国への報告ということでよろしいですか？それは1年ずれて3月末ということにはなっております。

村上会長

他にございませんか？

大鰐質問

この取り組み状況 6 ページの 2 のところに、申込み方法の工夫というのが書かれているんですが、これはどのようなことをされている？

鈴木 G L

申し訳ございません、説明不足でした。申込み方法の工夫といいましても、申込みの仕方が町内回覧を通して保健推進員を通じて申込書で健康増進課の方に申込みいただくという方法もありますけれども、それ以外にももちろん電話でも F A X でも O K ですという意味と、後は申込みの用紙等をできるだけわかりやすく工夫しながら、検討を加えながら、町内の方に回しているということです。

大鰐委員

もうちょっとよろしいでしょうか？先ほどがんの死亡のお話がありましたが、これは年代別に取っているものでしょうか？

鈴木 G L

はい。

大鰐委員

例えば期間剥いで見たときにこの 122 人の方の何歳の方が一番多いとかっていうのは？

鈴木 G L

そこまではわかりません、今は資料がないです。

大鰐委員

トータルでは？

鈴木 G L

トータルでは先ほど言った通り 50 代から増えていきます。

大鰐委員

そうするともしかしたら 70 代 80 代の方が多いかもしれない？

鈴木G L

はい、少しお話しすると、がんの死亡ですけれども、40 歳代までは三桁台行かないんですね、62 人とか、50 何人とかってということなんですけれども、50 歳代になると男性が 214 人、それから女性が 164 人、60 歳代で男性が 467 人、女性が 212 人、それから 70 歳代になると、男性が 621 人、女性が 334 人、80 歳以上で男性が 360 人、女性が 334 人、ただし、単年ではなくて平成 13 年度から 17 年までの合計でございます。

大鰐委員

同じようにがん検診の受診者の状況、というか受診率は年代別にみているんでしょうか？

鈴木G L

はい、みております。高齢者の方が多い状況になります。

大鰐委員

資料には出ていないんですね。

鈴木G L

資料には載っていません。年代別の受診者数を見ますと、70 歳代のところがどのがん検診も受診率が高いという状況になっております。50 歳ぐらいまではあんまり、40 歳から 50 歳代ぐらいまでは平行線で、60 歳ぐらいから増え、70 代が一番多いという状況で、3、4 年ぐらい追っても同じような感じで、やはり高齢者の方が受診率は高くてちょっと固定化してきている。受診数が固定化してきている。若い世代が増えていかないという状況はあろうかと思えます。もちろん会社等で受ける機会のある方も多いと思えますので、そういうふうにはなると思うんですけれども。

村上会長

はい、どうぞ。

伊藤委員

わたしもちょっと資料不足って言うんですか、偏っているような、いろいろ説明を聞きまして、青森県がワースト 1 番ですっけ？県として。がんの、よくわかります。それで今日特別こうテーマを取り上げた理由もよく理解したと思うんですけれども、例えば取り組みにしてもですね、もうすでにこの資料にあるようにいろいろ市でいろいろ取り組んでいきますよね、この資料にあるようにやっています。それで、取り組みってどうしますかってのが今日の重要なテーマだと思うんです。それであれば今まで通りであればなんもここで特別

あれすることもなくて、市でいろいろ取り組んでいるのにさらにこう何かいろいろ訂正とか、アイデアとかいろいろな会議の、今日の話合いのテーマがそれであろうと思うんであればですね、例えばがんの死亡が今ほとんどデータ、さっきでてます、けどもですね、もちろん大事です、死亡どれだけあったかっていうのは大事ですけども、もっと別な見方すれば、がんにかかった人がどうかというより、なんて言いますかねえ、がんの死亡率を前面に出すのもいいんですけども、それだけじゃなくて、がん患者数ですね、先ほど説明資料ないと説明だけちょっとありましたね、患者数はどうなっているんだろうかと、年代別も含めてです、それで、さっき患者数の80%っていうんですか？検診すれば助かると、その状況の資料がですね、もっと詳しい資料が必要じゃないかなと私思っていました。検診を受けた人がですね、どれだけの人が検診を受け、その率は出てますけども、検診、その表、データ出てますけどもね、そうではなくて中身ですよ、大事なことは。そういった資料がですね、なんか死亡だけに限定、死亡数がデータで出ればここはいいじゃなくて、内容、要するにお医者さんたちは、例えば、がん検診を受ければですね、80%が助かるっていう常識になっているのかもしれない。ただ、一般の人からすれば、そういった資料も大事なんですね。言葉よりも資料として欲しい。死亡数のデータは、表がいっぱい出てます。ところが患者数っていうのはあんまり出てないですよ。その患者数の推移がどうなっているかどうかですね、それから、もっと先ほどですね、話せば長くなるからあれですけども、例えば、精検者数、精密検査ですね。その精密検者数はどこから出たかっていうと、検診を受けた人の中で精密検査を言われた人ですよ。だけど、その前に、検査を受けた、受けるかどうかというのがまずその前にありますよね。一般の人で、何%の人が健康診断を受けてるか、初めて健康診断を受けて初めて精検者数が出てくるわけですけども、一般八戸市民の中でですね、健康診断にどれだけの人が行って、どうなっているかと。そして、その中の健康診断を受けてる人のどれだけが精検者数になって、精検者数がどうのこうのって続くと思うんですけども、そういった資料、もう少しですね、何か、詳しい方はそんなの当たり前だと思っているかもしれませんが、我々からすると、そういった資料が是非、いろいろどうするかっていうのを考える時にですね、資料としてそれで大事に思うんです。ということで、まあ次回からでもいいんですけどね、なんかそういったの、考慮した、準備していただければ、すごくこう今日の会議に助かるかなと思っていたりして、今の事に関して何かあればよろしくお願いします。

村上会長

はい、貴重なご意見ありがとうございました。まだまだ情報をお伝えできればよかったんですけど、やっぱりおっしゃったことはよくわかりますので、がんの人が何人いるかっていうの非常に興味がありますし、なかなかそれを調べるのは難しいんですけど、ただ、受診対象者、検診対象者の大体20%ぐらいですね、検診受けてる方はですね。それから、もう少しそういうデータをそろえていただければ非常に、

伊藤委員

大体取り組みとかいろいろもうすべてやってるんですよね。もっと言えば普通の人なら、考えられそうな案は全部出てます。市でもすでにやっています。だから、それで十分ならばなんも必要ないです。さらになると、やっぱり今のような出来るだけの情報とか資料ですね、してもらえればもっと参考になるかなと思ったんですけども。

村上会長

これは住民側、受ける住民側と、それから検診する側、市、医師会、健診センター、それから、検診とは別に生活習慣病っていうのが、がんにならないように煙草・酒とかですね、おっきな要素が三つあると思うんですけど、先ほど説明にありました住民側に対しては、自分が健康だからとか、いつでも受けられる、時間がない、面倒だとか、まだまだがんにならない、若いっていう、そういう住民側の意識改革も必要だと思いますし、そこで今度は企業がどうその人たちを、企業の方々から努力してもらってっていうのも必要ですし、市としては非常にこの事業報告にありましたようにいろんなことをやっていますし、あとは何が必要だかっていうと、やはり若い人は企業の協力とか、今日いらしている方々の組織の方々がこれにどうこれからもっと取り組んでくれるかという、その辺がこう必要だと思うんですね。データもたくさん出てくるとは思いますけど、そういう意味から、今日は組織として会社として、若い人たちをどうやるか、とかですね、そういう意見も頂ければと思うんですけど。データはまた、もっと細かいのを次回には出したいと思いますので。

伊藤委員

よろしくをお願いします。

村上会長

いかがでしょうか。職場において、がんっていう意識は多分かなり薄いと思いますけど。どうぞ。

中村委員

私、食改と申しまして、ここについてまず食生活改善推進員協議会と申します。いつもこの健康にっぽん21のこれに基づいて、予防の方は私どもは食育の方を主にやってまして、赤ちゃんから高齢者までの、食育の方やってまして、検診の方はね、はっきり申しまして言ってなかったんです。予防の方は随時、これに基づいて煙草はいけない、アルコールはほどほどにとかっていうのをやってたんですけども、正直申しまして検診を高める方向にはもってなかったんです。だから、正直申しまして、これからは私どもの団体も検診を大いに受けましょう、そういうふうにもっていきたいと思っていました、私は。それで、ち

なみに、実は昨日柏崎公民館で私どもの一部の研修会がございまして、その席で40名参加会員がいて、念のため最後に私「がん検診受けてますか？」ってことを手あげさせたんです。そうしたら、約40名いましたけれども、参加会員が、半分以上は受けてるって言ってましたので、今後は会員が今219名ございますけれども、各地区にいますので、私今個人の考えですけども、みんな会員にある程度伝えまして、まず会員が受けるように、家族が受けるように、近所の人受けるようにと、もっていきたいと思ってました、私どもの団体は。以上でございます。

村上会長

ありがとうございます。

杉山委員

ポイントは検診率がなぜ低いか、ということで、どうしたら上げられるかってことですね。それに関連するのでちょっと伺いますが、さまざまな市で行われている、今おっしゃった食生活改善委員とかいろんな委員がおりますけども、保健推進員というのを今これで見てるんですけども、たくさんの方がいらっしゃる保健業務概要の中にありますが、まだ一般的に知られてない面もありますので、どういうふうにしてその推進員という人たちが生まれるというか増えていくのでしょうか？存在するのか。

鈴木G L

保健推進員は町内会長の推薦をいただいて市長が委嘱している方々ですけども、一応各町内の中で230世帯に1名という基準でおよその基準で決めさせていただきますので、町内会によっては1人のところもあれば、4人いるところもございます。町内会の中で、大きな仕事の一つは、今のこの検診等のお便りの回覧とか、それから直接口頭でのお勧めとか、それから検診の申込みの取りまとめ、連絡等をしていただくということと、普段町内会主催の健康教室等を町内会の方と相談して、企画をしていただいて、その中で健康づくりに関するお話し合いをしたり、保健指導やいろいろこの検診の事も含めて、健康づくりについて講話したり、そういう間に立って、町内会と私ども行政の方と保健師の方と繋いでくれている大事なメンバーです。検診もこの方々に、口コミで一軒一軒歩いてくださるところもあれば、いろいろ活動の差はございますけれども、協力していただいております。

杉山委員

町内会のお便りとか、そういうことで知ると、町内会に入っていない方が非常に多いんですけど、そういう面で、さらにその推進員の活動を活発化するための方法と、広報とかを使ってしていかなければいけないんじゃないか、非常に重要な役割を持っていると思います。

鈴木 G L

ありがとうございます。確かに保健推進員さんがどこにいるかわからないとか、町内会に入っていない方への対策というのは課題でございますので、検討していかなければいけないと思っております。

村上会長

ありがとうございました。あるデータがあるんですけど、なぜ 50%まで届かないか、検診率が低いかっていうのを調査したのがあるんですけど、20%は住民のがんの認識不足ですね、あと 20%は普及啓発不足ということ、それから検診体制の問題が 20%、それから受診しない人の健診・がん検診受けない人の対策が 10%、それから周知不十分は 7, 8%、周知はかなり徹底されますけど、やはり少ないっていうことが大きい、住民認識不足が 20%ありますので、その辺が大きな問題だと思うんですけど、ただ、検診受けるっていう認識はあると思うんですけど、がん検診までいくとどれだけ認識がとなると、またひとつ大きな問題が増えてくるんじゃないかなと思いますけど。その辺も課題ですけど、今日はいろいろいらしてんですけど、健診センターの所長さんは後にして、八戸青年会議所といいますと若い方が多いんですけど、若い方はお酒たばこは飲むし、検診とかがんに関してどれくらい考えているかですね、商工会議所、女性会もありますけど、いかがですか、その辺は。

小山委員

はい、私は女性会ですけども、企業に勤務しているわけですけども、職場ではここ 2, 3 年目立っているのが、若い女性の婦人科検診への関心の高さです。ちょっと私たちが若いころには考えられなかったっていうか、「えー、そんなの」っていう状態だったのに、今、19, 20 歳ぐらいの新入社員の女の子たちと、うちはちょっと女性が多い職場なんで、乳がん検診とか、子宮がん検診、積極的です。とっても驚きました。ただし、こういうふうに健診センター所長さんがいらっしゃるところで申し上げるのは大変ちょっと心かしいんですけど、一度受けると雰囲気嫌でもう行きたくないって言うんです。ほんとに大変言いづらい話なんですけども、正直言って、やっぱりいろんな知識とか今マスコミ、メディアのあれもありますから、関心があるんですね、みんなやっぱり一度は、自分は病気になりたくないっていうのもあるので、行くんですけども、なんとなくもう、一度やると、また続けて受けていかなきゃいけないんだよって私も言うんですけども、「いやーもういい。」っていうんですよ。我々はもう私も割と 30 代の時からずーっと続けてやってきてるんで、最初やっぱりいやでした。ほんとに雰囲気が。どうしても抵抗があって、受けなきゃいけない受けた方がいいんだってわかっててもやっぱり、どうしても女性ってなんとなく、女性の方はわかると思うんですけど、婦人科の検診ってすごく嫌な感じなんですね。その辺をもう少し、雰囲気とか対応とかなんないものかっていつも思ってたんですね。今民間の医療機関で私は受けてるんですけども、やはり対応が全然、個室で一人ずつやってくれたり

とか、やっぱり、そういうふうになると結構うちの会社でも、みんなそっちで受けたいってなるんですね。ですから、やっぱり女性の子宮がん乳がん検診をもっともっと、どうしても女性ががんになるのってほとんど婦人科だと聞いておりますので、その辺をもう少し、せっかく今若い人たちも関心を持ってきているので、その若い人たちがずっと続けて検診に受けていけるような、そういう、受診しても、気持ち良くはなんないでしょうけども、続けていけるような雰囲気とか体制・対応っていうものを是非検討していただけないかと、常々思っております。

菅原委員

ありがとうございます。

村上会長

先ほど私がいいましたように、検診体制の問題っていうのも、やはり2割はありますんで、そこは所長さんと相談して改善していきたいと思えますし、あと最近、子宮頸がんワクチンですか、有料ですけど普及して、結構東京なんかでは関心を持ってやっている人もいますけどね、その辺が進んでくれればいいと思えますけど。青年会議所の小澤さん、じゃあ。

小澤委員

がん検診っていうのは、私今このお話いただくまで耳にしたことも（笑）。そういう検診があるのかというのを思いまして、断片的にとりとめもなく浮かんできた疑問っていうか考えを申し上げさせていただきますと、例えば国では50%の検診率を目標にしておると、さっきおっしゃいましたけれども、全国的に見て50%を達成している市町村っていうのはあるのでしょうか？

村上会長

いくつかはあります。

小澤委員

とするならば、そのやり方に習うとはいかないまでも、八戸市として参考にできる方法、そこからまた見出すという方法もひとつかと思えますし、検診率自体の数字、パーセンテージを上げるということですけども、全体的に上がれば申し分ないでしょうけど、若い世代が受診率が上がれば、ずいぶん数字も上がるかと思うんですが、医療の立場から、何歳ぐらいからやった方がいいとか、そういったものはございますものなのでしょうか？

村上会長

がんの種類にもよりますけれど、どうですか、30歳40歳ぐらいから。

高木委員

一応、各がん検診は37ページに書いてますけれども、40歳以上とかですね、がんによりま
すけど、そういうのを対象にしてやってるわけです。

菅原委員

別なこと今考えてまして、そのことだけ。特にがんの種類によって違いますけども、例え
ば乳がんとか子宮がんのような場合には40歳代になると非常にピークを迎えますね。ただ
もっと20歳代の後半あたりからも増えてきますから、検診をやはりそういう若い人たちに
受けさせるという努力をしないといけない、ということにはなってますね。

村上会長

ありがとうございました。

小澤委員

となると、ターゲットにする年代を絞るということに。そういう方法がいいか悪いか別に
して、そういうふうにするとなると、また方法もなんかこう出てくるのかなと思っており
ました。以上です。

村上会長

看護協会は、看護師さんたちがたくさん多いんですけども、いかがですか？

館林委員

まず私は公立の病院に勤めてるもんですから、やっぱりいろんなそういうドック・検診と
かの機会もありますけど、今お話を聞いてると、例えば、今若い人たちでパートタイマー
とかそういう人たち、事業に所属していない人たちとかの、もしかしたら検診っていう機
会が少ない人たちをどういうふうにフォローしていけばいいのかなあとか、例えば、なん
かのきっかけで病院とかにいらしたときに、どのように働きかけができるのかな、という
ふうなのを今考えながら、なんか出来るのかなと思っておりました。

村上会長

そうですね、正規労働者とか、臨時とか別なその臨時雇用とかそういう方のあるかも知れ
ない。

館林委員

なのと、事業所とかで割と義務付けられてるので、

村上会長
正規職員は、

館林委員

いいんですけど、そうじゃない人たちが結構いらっしやると思うんですね。そういう人たちのフォローが。

村上会長

健康まつりではデーリー東北さんにだいぶお世話になってます。

九州のですね、福岡市だったかな、市長が手紙を書いて全員の住民に出して、検診・がん検診受けなさいって、市長が先頭を取ってやっている市もあるんですね。もう、市長の名前で手紙を全員に出してですね、がん検診、そういうふうな、市としても報道を利用したりですね、ネットをやってますけど、デーリー東北さんはどうでしょうか。がん検診何か。

阿部委員

デーリー東北というよりも個人的なんですけれども、若い時分はずいぶんですね、がんについての報道とかテレビ新聞をですね、見るようにして、それなりに覚えたつもりではいたんですけども、実際に今日、こういう会合でですね、あらためて数字を聞いたりすると、怖さを再認識するというか、のど元過ぎればまた忘れてしまうんでしょうけども、20代、30代にずいぶんしつこく聞いたような気がして、それが耳だこになってですね、最近がんの話とか報道とか書きもの見ても、がんっていうだけで、もう自分は知ったつもりでいたんですけどね、あらためて聞くとほとんど知ってないとか忘れてるというか、ということは、例えば柱三つぐらい大きな数字になりますから、それを柱に掲げてキャッチコピー的にくり返しくり返しですね、目にする、耳にする、そういう機会を与える、与えられるか、ということだと。やっぱりのど元過ぎた時間また再確認、再認識して、がんの怖さなりを認識できるのかなと、それくらいしないと。例えば昔の話ですけど、交通三悪とかって言って、スピード・酒酔い・無免許とかだと、耳に入り頭に入ってるし、無意識のうちにとってところもあるんですけども、がんっていうことになれば、どうも知ったつもりでいる、でも実際には知らない。このギャップがやはり受診率が低いとかに繋がってくるんでしょうから、繰り返し繰り返し、あまり幅広くというか、事細かにじゃあなくてですね、柱を立てて繰り返しこうある程度、それくらいしかないんだろうねっていう気がします。

村上会長

ありがとうございました。他にどなたかありませんか？

杉山委員

健診センターへは行きやすいかという問題、大変言いにくいんですけど、ありますね。送迎バスが十分にその住民たち、あまり苦労しないでそこまでたどりつけるかという問題、それは公共交通の問題との関連がありますので大変難しいんですけども、その問題、健診センターへどのようにして行くか、と行きやすい方法を考えなくちゃいけないのではないかと、今でもバスあるのは知ってるんですけど、なかなかそう十分ではないと思うんですね。もし健診センターが停留所前にあるとかですね、それから不便ですねっていう声がよく聞かれるので、例えばね街の真ん中にあるとか、そういうことであれば用事を足しながらとか、買い物しながらとか、なにか楽しいこととくっつけて、嫌ながん検診だけど、怖いんですよ誰しも、健康なものでもやはり怖いんです。でも、楽しいことと結び付けて出かけようかなという気になると思うんですよ。そういうことで、行きやすいということ、そうすると、私はこれ大好きなんですけども、わが家の健康カレンダーの中にどの地区の人はどの辺に行けばっていうの、簡単にでも、送迎バス、難しいのかもしれない、あったら見やすいなど。皆さんいそがしいから、いついつの検診にバスがどこに来るっていうのあっても、なかなか忘れてたりしますね。そういうことで、一目でわかるようなあれだと、いいなあと思います。あと、先ほどありました、行きやすいということの中に、特に女性の場合はさっきおっしゃった通りだと思います。非常にそのなりたくない、がんの恐ろしさ知ってるけれども、躊躇してしまう、後回しにしてしまう、ということがあると思うんですね。男女にかかわらず、年代にかかわらず、そういうことはあるんじゃないでしょうか。ですので、雰囲気ってさっきおっしゃいますけども、ちょっと行きやすいような雰囲気が必要なんじゃないかな、と思います。

菅原委員

ありがとうございます。

村上会長

東京では女性専用のクリニックがあって、女性だけのビルがあってそこに科が入ってる。健診センターも女性専用のビルでもあればいいんですけど、女性用のパートでもあれば、多分、所長さんの方も考えてると思うんですけど、あとは健診センター三日町あたりにあれば一番いいと、私たちも思ったことがあるんですけど、いろいろ、そうやっていけばと思います。ありがとうございました。他にございませんか。

成田委員

今日のテーマの一番は、多分受診率の向上ということなんだろうと思うんですけど、

先ほど青年会議所の方から 50%達しているところあるんでしょうかと、私あると思わなかったんですけど、あるということで、そういったいいところのまねしてね、それを取り組んでいくのも一つですけど、この 3 ページ目を見ると青森市って意外と下位ですよ、どういう意味でその下位になるのかわかりませんが、これと同じようなことが八戸市でもやられているとすれば、それをちょっと見直すことも必要かなという感じもしますし、あとこの 6 ページのこの取り組みを見ますと、がんに対する非常にきめ細かくやっていますね。これ以上何があるんだろうと、私もさっき思ったとこなんですけどね。これ以上のことについては、例えば先ほど誰かからも、無料券という形で、つまり、健康っていうのは、無駄な投資にならないってことですね、健康っていうのは社会の中に大切な、資本っていうか、そういうことだということ、もっと市の方からいろいろ援助がいただければ、たぶんもうちょっと改善するのかな。例えば千円の負担金とかいろいろありますよね。わずかだと思んですけども、これがまた意外と引っかけ受診率を抑制してる可能性もあるのかなと、いう気がしましたので。私たちもいろいろ検診してるんで、ちっとも受診率上がらないんですね。それにいろいろ困ってるんですけども、やはり、そういうところにちょっと考慮いただければありがたいなと思っておりました。

村上会長

貴重なご意見ありがとうございました。

菅原委員

私もよろしいですか。いろいろご意見いただきました。ありがとうございます。いろいろ、我々の方でも考えてるんですが、なにせ急にこの建物の中を変えるっていうのも、なかなか難しいもので、いつもそういうことの、内部でも話題に出るんですが、例えば、男と女の人の検診体制を、なんか廊下にこうバラバラ並べるなんてこととてもまずいんで、どうかできないのかなんてことも検討したり、あとはバスの事もよく出るんですが、現状では改善するところまでなかなかできないでいて、バス停も健診センター前っていうバス停はあるんですが、実はちょっと離れているところにあるというようなことなどで、いろいろご提言いただきましたことを、改善の方向にはもっていくつもりです。どうもありがとうございました。

菅原資料説明

それで、私ちょっと多少お話を申し上げたいです。私資料を作ってきました。これはですね、今更こういろいろ説明しようとするつもりでないんですが、市の方でいろいろやってくれて、十分なことはやってくれてますが、こういう表があるとわかりやすいもんですから、例えば、青森県はこの死亡率が胃、大腸、この 2 ページめ、3 ページ目ぐらいにあります、この死亡率のワースト 1 というようなことがあって、なんとかしないとダメだと

ということになってますが、青森県の医療水準は決して低くありません、高いです。ただ、社会的な民度っていうんでしょうか、それが原因になってこういう、いろんな検診率もいちばん悪く来てるんですが、ここに大腸がんの死亡の一番高いのが、これは1年前の資料ですが1位になってます。あと1位は乳がんの死亡率も1位になってます。というふうに、非常に高いんでなんとかしないといけないというあたりがあります。それで、市の保健業務概要から出ているのを、科別にがん検診ってというのが大腸と肺がんと胃がんと子宮がんと乳がんしかないんです。あと前立腺がんとか肝がんなんかございますが、日本の国で決めているのはこの5つだけです。ですからここに、市でやってるがん検診の数字を大腸がん、肺がん、胃がん、子宮がん、乳がん、と、こういうふうに市でやったのをまとめて私掲げました。あとは、次の表は大腸がんを八戸市でカウントしてるのが6月現在でまとめてますから、私、大腸がんとか胃がん、内科で消化器をやってるもんですから、特に大腸がんをなんとかしたいと思って、目の色を変えているんですが、ここに上の段は精検率が受診率が67.6%、今年20年は66.3になってますが、実はうちの方の検診だけを見ますと、大体80%超えてます。うちの方の検診がほしい95%、八戸市の住民の95%うちのほうでやってますから、うちのほうの検診を見れば大体、八戸市の全体の数字をほぼ網羅してると思います。それで、この翌年の3月末に見ますと大体80%以上です。20年度はちょっと下がって79.7%になってますが、こういう数字になってます。それで、ここにですね、がんの人は、大便の検査でプラスの人のうちのがんは何人いるかっていうと、大体30人に一人がんいますよ。そのひとりに入ってもらっちゃ困るわけで、29名に入ってもらいたいんですね。そのためには、精検をやらないといけないんです。その年によって30人に一人だったり、20人に一人だったりしますが、大体私はいつも30人に一人はがんいますよと言っています。ただし、そのがんはですね、軽いがんも含めてがんです。手術をしなればいけないんじゃなく、内視鏡で中を見て取ってしまうがんが大体3分の1がそうですね、半分って言うていいかもしれませんが。あとは、八戸の市立病院とか労災病院にお願いしてますので、その結果がちゃんとがんがどこにあってどういうがんで、非常に速いがんだったかどうかを全部結果をいただいています。ところが、今なかなかがんっていうか、いろいろ個人情報がありますから、最終的な返事をいただけない施設もございませぬ。ただし、私の方に帰ってきますデータを見ますと、大体半分ぐらいの人が早期がんです。ですから、手術してませぬ。というふうに、早く見つければいいわけで、それで、この大腸がんを書いた中にですね、陽性だったけども、精密検査を受けない人が、20年では147人います。前の年は179名という人が精検を受けてないんですが、その140名のうちの中にですね、がんがおそらく4、5人います。場合によると5、6人いますね。それを知らないで次の年になってしまうともう手遅れ。ですから、検診を受けたらやっぱり精密検査を受けていただいて、まず、早くそれを取ってしまう。ということになれば、それを死亡に行かないで治るわけですから、そういうこと、私この表を作りながら感じました。あとは、全国でこれも1年前の資料なんですけど、ここに横の表がございませぬ、まだまだ

低いがん検診の受診率、これは八戸市は決して低くありません。大体 30% ぐらい受けてるわけですから、決して低い数字ではありません。しかし、50% に持っていくのはなかなか難しいということから、今、市の増進課の方は頑張ってくれてます。私もいろいろがんばろうと思っておりますが、健診センターでは限界がございますので、それで私は提案ですが、ここからが本番です。やはりあらゆる機会を利用して、がん検診の必要性をしゃべってくるほかないですね。デーリー東北の方もおっしゃいましたけれども、機会を見てもう繰り返し繰り返し、しゃべるよりほかないと思います。私らの方の健診センターも不備だらけですけれども、やはり受けないことにはこれを防ぎようがございませんので、まず繰り返し繰り返し、あとはいろんな健康まつりとか、いろんな健康教室なんかでやっておりますが、これでは不十分ですね。絶対、いろんな人が集まる場所、例えば開業医の先生のところを回って歩いて、全然関係のない先生、例えば整形外科の先生でもなんでもいいんですよ。そういう先生も、がん検診は受けるべきだっていうことを、患者さんに言っていただかないといけないなと私は思ったりしてます。健康まつりでもよく人を集めて、医師会主催の市民健康講座っていいかもしれませんかね、乳がん、子宮がんとか肺がんも含めてですね、講演を開いて非常に好評だったんですが、いずれにしてもパンフレットでは、ポスターでも、やっぱり不十分ですね。見てもちらっと見るだけでももう終わってしまいますから。繰り返し繰り返し、婦人会、町内会、老人クラブ、あとはボランティア、いろんなところに、私出向いていってお話してもいいなと思っておりますが、お呼びかからないから行かないんです。そう思ってます。あとは、このごろ新聞にしょっちゅう載ってます、この間デーリー東北にも 2 月 1 日号に青森でがん対策のタウンミーティングっていうのを開いたって新聞がこの間載ってましたが、がん対策推進協議会、これございますか？八戸市で、

鈴木 G L

いえ

菅原委員

ございません？厚労省でがん対策推進協議会ワーキンググループっていうの、青森でやられたんですが、こういうようなことをやるべきだというふうな指標には載ってますよね、がん検診の、いずれにしても。これは東奥日報ですね、がんの話っていうので、ずーっと連載されていて、今まで 100 回ぐらい、毎日連載されている記事にも載ってますが、患者の会っていうことで、がんになった方の活動も必要だっていう事が言われてるんですが、がんになってしまおうとなかなか、私はがんだなんて言いたくないから言わないんでしょうけれど、やっぱりそういう人活用してどんどん進めないといけないってことも、しょっちゅう新聞なんかには出てますが・・・歩行者天国なんかでもやってもいいんじゃないかなんてことが載ってますですね。あとは、自己診断を呼びかけたらどうだろう、ということだとか。いずれにしても、市役所ががんばってます。市役所に任せっぱなしでこれいいってこ

とは絶対ないですね。ほんとに皆さんここに集まってる方だけではできないことですが、呼びかけて、いろんな方に呼びかけていくよりほかないんでないでしょうか。それを誰がやるかっていうことあたりになるんでしょうけれど、医師会長さんにでもお願いして(笑)今日は、医師会のルートを通じながらでもやればいいのかもかもしれませんが、いずれにしても、食育推進協議会とかいろいろございますでしょ、保健推進員とか、こういう方たちだけでは、だめかもしれないので、出来るだけいろんなところに声を掛けていくことを私は提言いたします。いずれにしても、うちの方に検診に来る方たちは、たいていリピーターです。来ない人は来ないです。来る人は来ます。ですけども、一人でも二人でも増やしていかないと、これはどうにもなりませんので、やはりそういうことじゃない。そして、やっぱり受診、一回でもいいから受けたことがない人をどうしていくかですよねえ、なかなか難しいテーマだと思うんですが、やはり市でお金を出せばいいっていうだけの問題ではございませんし、職場の問題もあるし、もうとても市だけのことでやるんではないんですが、やはり、市の方でも料金を安く設定するとか、支援をしていただければ、もちろん助かりますけども、そういうことだけではないですし、やっぱり検診を受けやすいような工夫、我々の健診センターも含めてですけども、そういうことが必要なのかなというふうに思ってます。いずれにしても、早期発見、早期治療、死亡率を死亡者を減らす、これが目標ですから、どうぞそういうことで進みたいと思います。ありがとうございます。

村上会長

ありがとうございました。

杉山委員

センターの所長さん大賛成です。非常に情熱的な気持ちを持ってらして、市の課の方たちも非常に一生懸命やってらっしゃる。それなのに私去年のを写してきたんですが、6万900人の対象者に対し、受診者が1万5千人ですね。胃がんがですね。先ほどのデータと重なるんですけど、大腸がんが6万900に対して受診者が1万7千、子宮がんとかも、乳がんが4万5,474人の中で7,820人しか受診してないとかですね、しかも無料のチケットをある年齢の方にさし上げても、非常に低い受診率だ、そういうこと考えるとすごくもったいない、体制が丁寧に作られてるんだけども、利用していないというもったいなさ、すごく感じます。例えば広報よりも新聞社の方もいらっしゃるけども、今日のこの協議会の様子を聞いただけでも非常なアピールになると思うんですね。皆さん生活に追われて、私たちもそうですけど、暮らしている、いそがしい、それを考える暇もない、ですけども、もう雇ったらもう終わりですよ。そういう恐ろしさをアピールしていくことの重要さ、まず新聞とかテレビとかラジオと非常に大きいんじゃないでしょうか。是非どんどん新聞に載せていただきたいなと思います。それからもうひとつ、なぜこういう重要な協議会なのに、年に2回しかないのかなという疑問がすごくあるんですね。今センターの所長さんの

話もありました通り、皆さんここに来てる方は非常に情熱的な、がん撲滅の気持ちを持ってらっしゃる方たちばかりだと思いますので、是非これを生かしてですね、行きませんかという気がいたします。

村上会長

ありがとうございました。はいどうぞ。

伊藤委員

皆さん先ほどの、私も賛成なんですけども、要するにですね、市でもいろいろ取り組んでますし、それで先ほどアンケートっていうのありましたけどね、なんか一部の地域とかなんかでなくて、何がこれからいっぱい取り組むべき項目がいっぱいありますよね、だから、その中で何をするのが、これはいろいろ、年とかその状況によって、変化はすると思うんですけど、まず現在ですね、今の場合は何に取り組むのが最も大事かというのを、要するにいろんなデータから客観的なことも考えてですね、データから何が大事かというのをやっぱり選ぶってのかね、取り組むべき時に参考にしてもらおう。検診を受けやすくするとか、バスだとか、そりゃ普通は当たり前のことです、と私は思うんです。だから、正確な情報、八戸市の実態、その正確な状況、一般市民がどう感じているか。アンケートありました、それで先ほど町内会とかいいました、逆にそういうものこそですね、各町内会に協力願ってアンケート取ればいい。それで、一部じゃなくても、できれば全市から、こう部毎でもデータ出てきます。それからもちろん医師会とかなんかも入ります。いろんなそういうデータの中で、今何が大事かという、今何をやるべきかというのを特に決めればいだけの事なんです。それで、それに向かって、検診を受けやすいのが大事だとなれば、先ほど先生おっしゃったように、そういういろいろやればいいわけですしね。その他に一般市民がですね、検診に対してどういう認識を持って、認識も大事だとか、当たり前のことですね。そういうのが当然出てくるんです。データさえあれば。それで、客観的なデータから、じゃこうするか判断していけばいいだけの事じゃないかと思います。確かに、ほんとは取り組むならですね、別にこの委員会だけじゃなくて、なんでもそうですけども、そういうデータから、それが先ほどのがん対策委員会ですか、もう大賛成、そういう立ち上げるくらいまでやらないとですね、今までのような、繰り返して、その時の思い付きと言えば大変申し訳ないですけどもね、いろいろ考えてると思うんですけども。そのようなイメージのことばかりやってたんでは、なかなか根本的な解決にならないと思います。本当に根本的に解決するには、元から改革していかないとならないんじゃないかなと思う、その元からやるためには、今までの繰り返しと言えば失礼で、一生懸命やってますよ、口が悪いと思うんですけども、元からするには、ある程度そういう、がん対策協議会なんて設けてですね、徹底的にやるようなことまで、そこまで踏み込まないとですね、なかなか進まないんじゃないかと思います。どっかで 50%超えてる地域あり、それがそれなりの理由が私ある

と思います。だから、調べれば、なるほどこういうわけこうだ、こういうふうになっているのかなというふうに、出てくるんじゃないでしょうか。だから、私も実はがん受けやすくするためにはという環境ですね、受けやすい環境を作るとか、それは思いつきます。だけど、その前に、あれもこれもというよりも、せめてですね、今年の例えば大きな目標は、これからのですね、まず、今何をすべきかという目標ですね、まずそういう目標を、掲げるというかね、作って、それに向かって進めるというふうなことから、やってみてはどうかなと思うんですけどもいかがでしょうか。

村上会長

貴重なご意見ありがとうございました。今回は、皆さんもがんの協議ということで、ちょっと戸惑った面もありましたけど、もう一回このがん検診についてやると思いますので、それまでに、またゆっくり今日の事を思い出してやっていただいて、また、市の方でもご要望のありましたより細かい、出来るだけ出せるデータをそろえたいと思いますし、それから、もっと絞ってですね、最初からあまり市も作るの難しいと思いますけど、2回くらいになるとできるかなとも考えてますし、それに向かっていくように市の方にもお願いしたいと思います。さっき何カ所か 50%超えてるっていう市町村ありますけど、人口の小さいところで、一つは私知っているところでは、全部検診の負担は公費で、ただでやっているっていうのは 70%いきますね。ある長が全部、健診・がん検診は公費でやるということもあります。そういうところは検診率が上がりますね。これは八戸では無理でしょうけど、まず 50%抜ける方法もこれから情報集めて、50%に達するように出来ればと思いますけど、他にもう時間ないようですけど、ございますか。

伊藤委員

それでなんですけども、例えば健康まつりなんかあってですね、先ほど先生がおっしゃったようにあの講演会立派な、あるいは公民館とか、あちこちやってますね、けども、それ私もすごく、なんて言いますか大事な講演だと思ってますが、やっぱり一般市民の立場からするとですね、行きたいと思ってもいろいろな事情があつたりして行けない人もいっぱいいるんですよ。だから本来ほんと言うと、あの健康診断もつたいないんですね、1日だけでは。いっぱいやることあるんです。例えばそれだけ考えても、もっとこう健康まつりをどのようにすべきかということを考え、それだけでもですね、いっぱい課題があると思いますけども、誰かも言ったように、皆さんが一丸となってですね、そういう取り組むようなのを、盛り上げるっていうなんかね、それを是非お願いできればなと思います。よろしくお願いします。

村上会長

ありがとうございました。議事が1番(1)(2)一緒になってしまったんですけど、いろ

いろいろご意見ありがとうございました。

時間も来ましたので、一応3番のその他に入りたいと思いますけど、その他何かございますか。それでは、たくさんのご意見ありがとうございました。またこれを次回につなげていきたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。以上でございます。

15：40 終了